

百貨店売上高 最大の11%減

日本百貨店協会が21日発表した2009年1～6月の全国百貨店売上高は前年同期比11%減（既存店ベース）の3兆2133億円だった。半期の下落率としては1965年の下落率として1965年

2009年1～6月の
全国百貨店売上高
単位億円、カッ
り捨てる年同マ
率は前年比▲

衣料品	12,008	(▲13.9)
身の回り品	4,050	(▲14.2)
雑貨	4,476	(▲14.4)
家庭用品	1,612	(▲14.0)
食料品	8,115	(▲3.8)
食堂・喫茶	910	(▲8.4)
ササの他	356	(▲1.6)
その他	604	(▲13.7)
総額	32,133	(▲11.0)

てで、過去最大だった1993年上半期（6・8%減）を上回った。通年でも大幅な売り上げ減は確実。1985年以来となる7兆円台割れの可能性も出てきた。

全国の上半期 衣料・高額品が不振

商品別でみると、売り上げの4割弱を占める衣料品が13・9%減少。美術・宝飾・貴金属（19%減）も低迷した。地域別では東京（11・9%減）などこれまで比較的好調だった都市圏での落ち込みが目立った。

同日発表した6月の売上高は前年同月比8・8%減の5319億円。前年割れは16カ月連続だが、夏物セールの前倒しが奏功し、下落幅は5カ月ぶりに1ケタ台となった。ただ「消費環境は基本的に何も変わっていない」（同協会）状況で、7月も衣料品などが厳しい。各社は中低価格品の拡充などで、売り上げ減に歯止めをかけようと必死だ。